

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473400651	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	
法人名	ライクケアネクスト株式会社		
事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森		
所在地	(〒246-0003) 神奈川県横浜市瀬谷区瀬谷町5631-1		
サービス種別 等 定員	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年1月6日	評価結果 市町村受理日	平成30年8月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>周りが自然に恵まれ安心して生活が出来る環境下で、日課である散歩や定期的な外出行事を実施することで閉塞感を感じないように努めている。地域のボランティアの方のレクリエーションや専門家の音楽療法に参加して頂き、メリハリのある毎日を提供している。お住いの皆様がわがままを言える、そして自分らしく暮らせる「あたたかい家庭」のような施設作りに力を入れて取り組んでいる。 ご希望があれば、ホームでのターミナルケアも行なっている。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年1月29日	評価機関 評価決定日	平成30年6月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は相鉄線瀬谷駅からバスで5～6分、最寄りの「細谷戸第一」バス停から徒歩5分程のところにある。瀬谷市民の森の西側に事業所があり、近くに法人の有料老人ホームがある。そばにはゴルフ練習場があり、周辺には住宅地や畑地が広がり静かな環境である。現在、道路工事、公園の整備など開発が進んでおり、環境が変わってきている。建物はバリアフリーで鉄骨2階建、エレベーターが設置されている。</p> <p><b>【理念の実践】</b> 理念は「思いやりと やさしさと ほほえみを（持って）『自分や自分の家族が入りたいと思うホーム作りを目指します』」である。職員は利用者の出来る事を把握し、出来る事は利用者のペースでもしてもらい、その人らしく過ごしてもらうことを大切に支援している。</p> <p><b>【介護計画作成の取り組み】</b> 利用者、家族の意向を反映させた介護計画を作成し、毎日、日勤・夜勤の職員がサービスの内容（ニーズ）を観察、記録している。月末に居室担当者が記録を評価し介護計画の見直しに活かしている。</p> <p><b>【接遇向上への取り組み】</b> 接遇については法人が力を注いでいる。年1回、法人内の接遇についての発表会があり、接遇担当職員が事業所の取り組みを発表した。事業所は、研修の実施し接遇担当職員を定めて、毎月接遇目標を決めている。1月の接遇目標は「個別の入居様に話しかける際は適切な距離まで近づいて」である。適切距離まで近づいて適切な音量、トーンで話しかけることに意識を置いている。職員は利用者に対して家族のような接し方を心掛けている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	サンライズ・ホーム瀬谷市民の森
ユニット名	1階ユニット やわらぎ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で事業所の理念を唱和している。	事業所独自の理念は「思いやりとやさしさと ほほえみを（持って）自分や自分の家族が入りたいと思うホームを目指します」である。管理者は個別に職員と理念について話し合うこともある。利用者のペースを大切に支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出を伴う地域の活動に参加する場面はほとんどないが、自治会の方や地域のボランティアの方との交流は出来ている。	旭台自治会に加入しており回覧板が届いている。事業所周辺の清掃や散歩時には近隣の方と挨拶を交わしている。定期的にカラオケ、写真、アコーディオンなどのボランティアの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の年間開催回数が少ない。年間計画表を作成し、きちんと開催できるようにしていく。	運営推進会議は平成29年5月と11月に開催した。今後は平成30年1月31日と3月末に実施予定である。参加者は家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員などである。事業所の状況報告のほか、質疑応答している。意見が出た際は、運営に活かす方針である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故が起きた際の対応や、生活保護を受給されている方が施設で暮らせるよう市町村の担当者と連絡を取り合っている。	瀬谷区生活支援課職員と連携して連絡を取り合っている。横浜市グループホーム連絡会に加入している。瀬谷区高齢・障害支援課との関係づくりはこれからである。	瀬谷区高齢障害支援課担当窓口で事業所の実情やケアサービスの取組みを折に触れ伝えるなど市町村との連携を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。リビングドアと玄関は施錠している。	身体拘束廃止の研修を29年8月に全員参加で行った。参加できなかった職員には、研修資料を回覧している。ユニット出入り口、玄関は施錠されているが、利用者が外に出る気配があるときは職員と一緒に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施することで、知識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居の際は十分な説明を行い、納得して頂けるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会を通じて、ご利用者やご家族様の意見を聞く機会を設け要望に沿えるよう運営している。	家族は運営推進会議で意見などを発言している。連絡帳に家族の意見や伝達したことを記録し、それを共有している。家族から「職員の名前と顔が分からない」という意見があり、反映させていくために話し合っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な全体会議を設けており、職員と意見交換を行なっている。個人的な面談も行なうようにしている。	月1回の全体会議のほか、業務の中でも職員の意見を聞いている。食事介助の際、むせてしまう利用者に対し、「ほかの方より早い時間に食事を用意し、自身で食事をしてもらったかどうか」との職員の意見を受け、利用者ができることを把握し、自力摂取に切り替えたことで、むせりの軽減につながったケースがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社と連携をとり、人事評価制度を主体に職員の労働環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTによる職員育成や社内研修を実施している。今後は資格取得制度の開始予定もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会に所属しているが、参加は出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際は事前に面談し、出来るだけご要望のヒアリングを行い安心して生活できるよう努めている。暫定のケアプランを作成後、見直しをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごとを緩和できるように密に連絡を取り、ご要望に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居間もない段階ではケアプランは暫定とし、1ヶ月または2ヵ月後に本プランを立てるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が手を出しすぎないように心がけている。ホームでは雑務を職員と一緒に出来る環境を作るようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご要望をきちんと傾聴し、一方的に物事を進めないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご要望があれば、外出や外泊もできる。電話連絡や手紙の交換も行なえるよう支援している。	家族の了承を得て友人や知人に訪問してもらっている。訪問時は居室に通し湯茶でもてなしている。希望があれば電話や年賀状などの通信支援をしている。家族の協力で墓参りや正月などには自宅に帰り、宿泊される方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交友関係は基本のご本人同士にお任せしている。相性が悪い場合は、職員が常に気にかけてトラブルを防いでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望があればご支援させて頂く。現在はその要望はない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話が出来る方は聞き取りを行い、会話が困難な場合はご家族様やご本人の行動から思いを検討している。	日常の関わりの中で意向の把握をしている。半数位の方は把握が難しく表情や仕草などから判断している。把握した情報は申送り時などに話し合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や経験を聞き取り、現在は何を望まれているか把握に努め、支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他職種でケースカンファレンスを行い、その人のニーズを見極め計画作成に努めている。ご家族様には来訪の際にお話を聞き取りしている。	介護計画は本人、家族、医師、看護師、マッサージ師などの意見を反映させている。通常、入居時は1か月、その後は6か月に1回に見直している。毎日モニタリングを実施し、月末に評価して介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表を作成し、毎日チェックを行ない、それをモニタリングの一つとしている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められたスケジュール通りではなく、その時の状況に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方の音楽を中心としたレクリエーション活動を取り入れている。自治会に加入しており、敬老の日はお祝いの品を届けてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が月に2回あり、その他にも必要があれば外部の受診も可能。訪問歯科や眼科も定期的な往診がある。	本人、家族が希望する協力医療機関で受診できる。その他の医療機関を受診する場合は原則家族対応としているが、難しい場合は職員が同行する「実費介護サービス」を利用できる。受診結果は「同行サービス記録表」で共有している。訪問マッサージを利用する方もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その通りに実行している。看護職員は薬の管理や情報収集を行い健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的にはご家族様が病院とのやりとりを行うが、施設側でも出来るだけ治療に専念して頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期にはご家族様と密に連絡をとり、ケアの方向性を決めている。医療との連携で看取り支援を行なっている。	入居時、家族に「看取り介護指針」など事業所の方針を説明している。年1回は、看取り介護の要件などについて研修を実施している。希望があれば家族、訪問医、管理者と話し合い看取りを行う。本年度は2名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、怪我の際の連絡手順シートを作成し使用している。AEDの使用方法や心肺蘇生の勉強会は定期的に行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施して、災害時の避難に備えている。地域から備蓄品も配布されている。管理者は外部の避難訓練にも参加するようにしている。	平成29年6月（昼間想定）・12月（夜間想定）に消防署立会いのもと避難訓練を実施した。12月はボランティアの方も協力してくれた。次回は2月27日の予定である。管理者はグループホーム連絡会の地域水害訓練に参加した。水、ビスケット、缶詰類などの非常用食品類は職員を含む3日分を備蓄している。カセットコンロ、おむつなども備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇を常に意識するため、接遇担当者が毎月の接遇目標を決めて職員に指導を行なっている。 定期的に接遇研修を行なうようにしている。	接遇研修を行なっている。1月の接遇目標は「個別に入居者様に話しかける際は適切な距離まで近づいて」である。適切距離まで近づいて適切な音量、トーンで話しかけることに意識を置いている。訪問時、職員は穏やかな雰囲気の利用者に接していた。個人情報を含む書類はリビングや玄関の鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を職員に話せる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合の決まりごとを押し付けず、自分のペースで生活できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きなものを身に付けてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、職員も一緒に頂いている。出来る方には片付けも手伝ってもらっている。	平成29年12月からグループホーム向けの献立と冷凍品のおかず配達を利用しており、職員が湯煎して利用者提供している。ご飯と汁物は事業所で作っている。主食をパンに変更したりソフト食の対応も出来る。年2回の外食行事を行っている。利用者はテーブルやトレイを拭いている。訪問時、職員は食事介助をしながら利用者と一緒に食事をしていた。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックして管理している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には毎食後の口腔ケアを促している。ご自分で出来ない方には職員が毎食後の口腔ケアを行なっている。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合った排泄の支援を行なっている。おむつの使用開始の際は担当者会議で話し合いをして決定している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声掛け、トイレ誘導をしている。日中は、出来るだけ布パンツでトイレでの排泄を支援している。入居時は排泄の失敗が多くあった方に対して、水分量の調節や立位保持のリハビリなどを行い、自立につながったケースがある。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターや看護師と連携をとり、その人に合った排泄管理に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の入浴日は決まっているが、体調やご本人のご要望にも柔軟に対応している。	入浴は週2回としているが希望があれば2回以上の入浴ができる。1階の浴室にはシャワー浴機器の設置があり、浴槽をまたぐことが困難な方はシャワー浴を利用している。現在、入浴を好まない方はいない。職員との会話、柚子湯などを楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不調の方以外は日中にレクリエーションやリハビリなど、活動的に過ごされて、夜は良く休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬研修を行なった職員が決められた方法で服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居以前の経験を活かしたお手伝いが実践できるよう、その人に合った役割を職員が模索している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩や買い物には職員が同行できればいつでも対応している。出来るだけ外出の機会を設け、閉塞感を感じない日常を心がけている。	毎日散歩に行っており、歩行が困難な方は車椅子で出かけている。体力的に外出が難しい方は居室で日光浴をしている。職員と一緒にコンビニまで買い物に行ったり、送迎車で床屋に行くこともある。市民の森、本郷公園に出かけ花見をした。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はお預かりしていないが、施設で管理している現金での買い手や必要な物品購入ができる環境にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その通り実践している。電話使用に関してはご家族様に事前に確認している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で使いやすい共用空間を提供できるよう努めている。	リビングは日当たりが良く、温度や湿度も適切に管理しており、寛げるようになっている。職員手作りの日めくりの暦と見やすい時計が壁に掛けられている。「かがやき写真館」と称したコーナーに利用者の写真が飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集まり過ごされていることが多いが、お好きな場所でお好きな方と過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に持ち込まれた家具もあり、ご本人の使いやすいように配置も自由に行っている。	居室にはエアコン、カーテン、ベッド、クローゼット、避難梯子が備えてある。入口には利用者氏名の表札を掛け、自室が分かりやすくなっている。仏壇、テレビ、小ダンスなどを持ち込み、壁のカレンダーに予定を書いたり、職員からもらったカードを飾るなどそれぞれが居心地のよい居室空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活するうえで困りごとが少なくなるよう、わかりやすく表示している。安全のためドアは施錠している場所がある。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズホーム 瀬谷市民の森

作成日 2018年7月25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	OJTによる新人育成を行っているが、職員の指導力不足が感じられる。	介護知識や技術を身につける	勉強会や研修を行い指導方法を学ぶ機会を設ける (本社にも協力をしもらう)	1年間
2	14	他のGHとの交流がなく、サービスの質の向上への取り組みができていない	定期的にGH連絡会へ出向き情報を共有するよう努める	市町村の研修に参加する計画を立てる、GH連絡会に参加する。	1年間
3	4	運営推進会議の回数が少ない (出席者の予定調整が困難である)	多くのご家族様に参加して頂けるようにしていく。	毎月の請求書に会議日程を送付してお知らせする。 (早めの対応を心がける)	1年間
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。